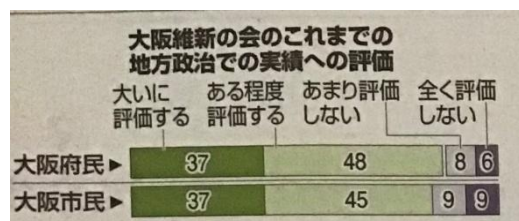


選挙結果と「維新政治」の評価

昨日レポートした大阪市議選について、念のため地元淀川区の確定票を集計すると、維新は3人で3万8030票を獲得している。これを4で割ると9507票になる。今回、最下位当選者は8072票だったので、単純に考えると定数5で、維新は4人当選も可能になる。考えただけで、おそろしくなる。

淀川区以外の区でも、維新はトップ当選が大半で、当選者全体の票も多く、同じような傾向が見られる。こんなことを書いたのも、維新の強さは一過性のものでなく構造的であり、4年先を見据えた取り組みが、非維新には求められるからだ。選挙戦術レベルの話ではないのだ。大阪府知事・大阪市長のダブル選についてはIRカジノ問題と関連づけて別に検討するとして、今回の維新完勝の背景として「維新政治」なるものの評価について考えてみたい。

写真は朝日新聞11日朝刊掲載の「大阪維新の会のこれまでの地方政治での実績への評価」である。大阪府民、大阪市民ともに、維新政治に8割の人が評価している。じつは、選挙結果に関するデータのなかで、正直いけば驚いたのは、維新政治への評価があまりにも高いことである。



4年前の選挙では、大阪に転居したばかりだったので、維新政治なるものがよく分からなかった。実際に暮らしてみて、維新政治によって大阪の暮らしにくさも実感できた。大阪市廃止の住民投票、さらにコロナ禍での全国最多の死者など、維新政治の恐怖も味わった。それなのに、維新政治を評価する人が8割もいることが理解に苦しむ。そして評価する人の多くは維新候補に投票した。

この調査は知事選が145投票所で6190人、市長選が60投票所で2179人から、有効回答を得たという。投票を終えた人に対する、いわゆる出口調査の結果である。その人たちのなかで、面倒な出口調査に応じた人の回答が集計された結果である。きちんと投票に出かけ、自分が支持する候補者、政党に一票を投じ、それをマスコミに見解を表明する人たちの意見なのだ。投票に行かない人は、維新政治をどう考えているのだろうか。政治に無関心な人だけでなく、生活に追われて投票に行く余裕もない人も少なくないだろう。

出口調査の結果から、維新政治が大半の住民から支持されていると考えることができないとしても、非維新サイドに多くの課題を提起しているように思われる。確かに、在阪メディアは維新政治の光だけを伝え、影の多くは伝えていない。維新政治の影について、チラシなどで伝えようと奮闘努力されてきたが、なかなか住民に伝わっていない。維新政治のどこを評価するのか、それを分析しながら対策を考えていかねばならない。

(2023年4月13日)